

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛 I		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	平成28年10月11	評価結果市町村受理日	平成28年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	平成28年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根づき、地域の方々から支えられてきたホームも、はや7年目を迎えました。今は、地域密着型ホームとして、住み慣れた地域での暮らしを少しでも支援するために、何が出来るのかを考えながら地域へ貢献できるホーム作りを目指しています。また、利用者様がその人らしく過ごすことができるよう、一人ひとりに合わせたケアを心掛け、家族様との絆を大切にしながら、一緒に支えていく関係づくりに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表者の地域貢献への思いは全職員に浸透し、感謝の思いを持って日々の業務にあたっている。職員の発案で始まった『茶話会』をはじめ、種まきから収穫までの畑作業、避難訓練など様々な行事に限らず、「花を持って行きなっせ〜!」と気軽に声をかけてもらったり、少しでも近隣者の姿を見かけなければ玄関から声をかけるなど、ご近所さんとしての日常的な交流が根付いている。また、古くからの祭り見物、慣習ごと(彼岸や盆の準備など)、地元ならではの食材を活かした食事提供など安心して過ごせる環境を人生の先輩である入居者から学びながら取り組んでいる。それぞれのリビングには、ホームの愛歌として家族の書による『ふるさと』の歌詞が掲示され、入居者と一緒に様々な機会に歌われている。これからも地域とホームの温もりある関係が未永く続いていくことを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	<p>○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>理念を事務室内、ホール内に掲示し、理念に即した行事計画を立て、利用者の日常生活の活性化に繋げている。</p>	<p>理念を共有し入居者の支援にあたることの重要性は研修や普段の会話の中で確認されている。理念を踏まえた行事計画などをたて、地域の中のホームとして日常生活が活気あるものとなるよう、努力や地域への感謝を忘れず、業務にあたっている。また、家族や地域の人々へも様々な機会に理念に関する話しを行うと共に、ホームの取り組みや職員の姿勢から、理解や浸透に繋がりたいとする思いも伝わってきた。</p>	
2	(2)	<p>○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域福祉活動やホーム行事を通して、地域との相互交流を深めている。更に、近隣住民からホームの為に交流を行い、地域との関係が構築されている。</p>	<p>法人代表者の地域への思いや感謝からホーム建設に至っており、開設当初から地域との交流は変わらぬ信頼関係のもと継続されている。花や野菜の差し入れをはじめ、ボランティアとの草むしりや植物の手入れ、芋の収穫など入居者が外に出る機会を後押ししている。「何時でん庭の花を採って行きなっせ〜！」「チューリップの球根はいつ植えるな〜！」いつも気にかけてくれる近隣地域の方々にホームは感謝を語っている。</p>	<p>『認知症カフェ』への取り組みも検討されていたが、現段階では焦らず、今の『慈愛』にできる地域との交流の継続に努めていきたいとしている。聞き取りや記録物からも地域の中のホームとして日常的な交流が展開されていることが窺え、今後も変わらぬホームの取り組みに大いに期待したい。</p>
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>ホーム行事の中で、認知症予防体操やレクレーション活動などを、地域の方が利用者様と共に、楽しく行う機会を作っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの提供報告やホームの運営に関する相談等を行い、意見が運営に活かされている。ホーム行事(敬老会や茶話会等)や防災協力体制、地域行事の協力が得られた。	二ヶ月ごとの開催が確立した会議は、入居者を身近にしながら慈愛 I ユニットで開催されている。入居者の現況や各月の行事・研修会報告をはじめ、出席者との意見交換など有意義な会議であることは詳細な記録物からも確認された。メンバーからは畑の活用や地域交流が蜜で素晴らしいと評価を受けたり、質問内容に応じて施設長や管理者より適切な回答がなされている。また、外部評価についても結果や目標など報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、またはグループホームからの相談事や地域福祉に関しての情報交換等を行うなど、連携を取っている。	行政担当者とは運営推進会の席をはじめ、イベントへの参加協力など、ホームの現況を理解してもらい、適宜アドバイスや指導を受けている。今年度は、ショートステイとしてホームの活用について相談を行っており、近隣・地域の利用の意向に応えたいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を開放している。全職員が身体拘束について理解が浸透し、拘束をしないケアを徹底している。	ホーム玄関は日中開錠されており、入居者の外出希望などに応じながら自由な時間を支援している。法人研修やホーム内でも身体拘束や虐待について新聞や報道などの事例をあげながら振り返る機会を持っている。また、職員の発する言葉や対応が入居者に大きな影響を与えることから、ゆとりを持つことや職員のリフレッシュする機会、体調が悪ければ無理をせず連絡して欲しい事などメンタル面へも配慮した勤務環境に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解し、虐待をしないケアを徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業の利用者様は入居されていない。知識を深めることに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金、入退居の条件等十分な説明を行い、ご家族の相談を聴き、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は、日常のコミュニケーションの中から、家族様は、面会時や家族会(年2回)の時に、意見や要望を出してもらい、それらを運営に反映させている。	入居者との関わりの時間を大切にしており、会話や支援する中で意見などを聞き取っている。家族については面会時や電話連絡、運営推進会議に参加した代表者・年2回の総会などの席で確認している。特に年末の家族総会では、地域飲食店からの弁当を広げ和やかな時間の中で意見交換などが行われている。玄関に意見箱の設置や公的機関の窓口についても説明が行われている。	入居者・家族とは日頃のコミュニケーションや訪問しやすい環境などに努めており、感謝の言葉や何かあれば要望を出されている。その信頼に応えるためにも、今後は職員間で内容を検討した家族アンケートを実施するなど、意見や要望を収集する取り組みに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や日々のコミュニケーションにより、随時、職員の意見や要望を聞き、日常業務の流れを見直すなど職員の提案を反映させている	管理者は日頃から職員と共に業務にあたり、コミュニケーションを図りながら、意見や要望を確認している。また、法人代表者や施設長と連携しながら働きやすい職場や研修の機会など就業環境の整備に努めている。職員の提案などを受け取る手段として、『職員提案制度投票箱』も事務所に置かれており、提出があればその都度法人にあげられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を聞く機会を設けたり、業務改善箱を設置するなど、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内への研修は月1回実施されている。法人外への研修は、積極的に受けられる体制を取り、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の同業者とは、研修の中で交流や相互訪問を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、外部への施設研修も行く意識を高めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、本人様の要望をうかがい、納得の上で、入居して頂いている。良い関係作りをする為に、家族様へ生活歴、趣味等の記入をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、家族様の要望をうかがっている。担当ケアマネジャーからの情報も聴き、ホームに対する不安が排除出来るような関係作りから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの機能を説明し、家族様、本人様の希望をうかがったり、担当ケアマネジャー等の助言をいただいたりして、サービスの対応策を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意思を尊重し、やりたい事、出来る事を見守り、出来ない事が出来るようになる為に一緒に行っている。一人一人との会話の機会を設け、共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密に取り、生活状況、心身の様子等を家族様に伝えている。家族様の意向を聞きながら、共に本人様を支えていく関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に、馴染みの人や場所を訪れるなど個別ケアを行い、関係が途切れないように努めている。	入居者にとって大切な家族や親類・知人との関係が途切れることのないよう、来訪の働きかけや気軽に訪れられる環境に努めている。入居者の「自宅へ帰りたい！」の要望にも、個別対応で取り組んでいる。祭りや慣習などが大切に残された地域であり、お諏訪祭り見物や季節の饅頭、葉の下処理から始まる柏団子作りには、入居者の手ほどきを受けながら一緒に取り組んでいる。また、太刀魚やえび飯などの郷土ならではの食事の提供も入居者にとって馴染みのものであり、好評である。	お盆には迎え団子や送り団子という、昔ながらの慣習を職員は大切にしている。飾り物や由来などこれからも若い職員にも継承しながら、地域の良さを大切にしたホームとして活躍いただきたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。また、利用者様が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態把握に努め、必要に応じて相談を受ける体制を取っており、これまでの関係性を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションから、本人様の希望や思いを把握し実践へと繋げている。困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談し、その都度対応している。	ゆったりとした時間の提供を大切にしており、職員はコミュニケーションの中で、思いや意向などを把握している。また、個々の職員が気づいた事は会議や日々の業務の中で発信する他、家族とも状況を共有しながら本人本位のプラン作成になるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族様、外部から面会に来られた時等、会話の中での情報を収集し、日頃のサービスに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見や要望などを取り入れながら、チームで話し合い介護計画書を作成している。	入居者を職員の担当制としており、カンファレンス日程は担当職員により決定されている。時間は午前9時から開催することで、多くの職員が参加できるようにしている。医師を含め関係者の意見が反映されたプランが作成されており、計画作成担当者は家族の状況に合わせて説明の時間を持っている。説明にあたっては、わかりやすさやその場でも何でも相談できるような雰囲気大切にしながら進め了承を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。また、日々の状態を申し送ることで情報を共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者様や家族様のニーズに応じ柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の消防団、駐在所との情報交換が出来、支援体制の構築が出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療がなされ、より適切な医療が受けられている。また、専門医へは家族様の希望を大切に、医療を受けられるよう支援している。	2ユニット18名の入居者は協力医による月2回の往診を受けている。24時間の緊急時対応や週1回の医師との情報交換の機会は、入居者への医療支援の充実と共に職員自身が安心するところである。往診日には担当看護師が1時間前に来所し、バイタルの事前確認や相談事に応じるなど、万全な体制で臨んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に看護師へ、状態や気づきなどを伝え相談することで、適切な診療や看護を受けることが出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族様に、回復状況の確認や情報をいただいている。また、主治医とは週1回の定例会議の中で、情報交換や相談ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると、ホームでは対応できないことを入居前に説明を行っている。重度化しつつある場合は早い段階で家族様に状態、状況を説明し、方針を理解していただいている。	入居時にホームでの医療行為について説明し、継続して必要となれば、対応が出来ない旨を家族に伝えている。職員は入居者との日頃の関わりの中から、自分たちに出来る支援の限りを尽くし、入院などに至るまでの充実した対応を心がけている。状態が心配された入居者が、入院を前に家族の訪問により、再び元気を取り戻された例を語っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急処置のマニュアルは作成している。重度化に伴い対応が難しくなっており、実践力を身につけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年3回は防災訓練を行っている。地域との協力体制も築けている。地震に関しては、消防署から知識や避難方法などを学び身につけている。	年3回の災害訓練には地元の消防団や近隣住民も加わり、地域全体で災害への危機意識を持ち協力体制を築いている。山間に面した地形、土砂崩れなどの自然災害に対応する砂防ダムの建設が進められている。今回の熊本地震では被害は少なかったものの、災害直後にはグループホーム連絡協議会での勉強会が開かれ、職員が多数参加している。	日頃より建物内外の安全点検や備蓄の確保に努めており、今後は協力的な地域住民と災害のノウハウを共有するための会合の機会などに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に置き、人格を把握、尊重し、言葉かけやプライバシー保護には、十分に気をつけ個別ケアに努めている。	入居者への呼称は苗字にさん付けで接し、普段の会話にはわかりやすく優しい表現を心がけている。食事のエプロン使用や排泄、入浴介助などの対応について、先ず自分に置き換えてみることで入居者の気持ちを理解し、自ずと支援方法がわかるとしている。せまい地域だからこそ個人情報や守秘義務の取り扱いについては十分注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の職員とのコミュニケーションにより、本人の思いや希望を感じ取れるように、また、本人様が意思表示し易い様な雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の利用者様の状態に応じて支援しているが、行事の日は時間に合わせて過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう、支援している。好みの衣装を把握し、一緒に準備したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地産地消の野菜や菜園で収穫した野菜などを使い、時に好みを聞きながら、楽しみのあるメニューを心掛けている。利用者様と一緒に準備、片付けを行っている。	両ユニットが一つの家として、別メニューで対応している。地産地消を心がけ収穫野菜や地域の差し入れを見ながら、「これで何を作りますか～！？」と、入居者に尋ねながら献立を決定している。職員は入居者と同じものを摂り、ゆっくり楽しみながら会話の弾む食事風景であった。また、季節や行事に合わせたおやつ(饅頭・団子など)と一緒に作っており、入居者の出番が更に食への楽しみを増している。	せっかくの検食簿であり、今後は味や盛り付け等の評価に加え、入居者の発した言葉や率直な感想など所見の欄に記入することで次の食事支援に反映されるものと思われる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を作成、記入し、把握している。状態に応じて食事量や食事形態を工夫し、提供している。水分が少ない方には、お茶ゼリーを作る等して水分確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを、毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。紙パンツ使用の利用者様でも、表情や仕草を見逃さず、必ずトイレ誘導を行っている。	職員は個々の排泄習慣やパターンを共有し、自立の継続ができるよう努め、殆どの方が布下着を使用されている。紙パンツ使用の方へも、表情などから声かけや誘導を行っている。トイレ内は車椅子や介護者もゆっくり使用できるスペースが確保されており、清潔に管理されている。また、さりげなく置かれた季節の花や手作りのトイレトペーパー収納ボックスなど、職員のひと工夫が窺われる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し、飲食物の工夫を行い、個々に応じた対応を行っている。困難な利用者様は、主治医に報告をし服薬の併用を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定はあるが、状況に応じ入浴していただいている。年に1回、近くの温泉を利用した入浴を支援している。	グループホームならではの個別ケアを重視し、一人30分程の時間をかけながら月～土曜の午前中を中心にした入浴支援を行っている。同性介助や入りたい時間など希望を確認し、入浴中の会話の時間も大切にしながら気持ちよかったと思える支援に努めている。また、近隣にある温泉施設を利用した際は、地域の特産品(野菜・饅頭など)に触れる機会を持ち、今年度はこれまでの家族風呂から職員も一緒に大浴場での入浴を楽しんでいる。	経年にあっても排水口の手入れの良さは業者も驚かれたエピソードもあるほど、清潔に管理されており、気持ち良い入浴に繋がっている。今後は、菖蒲や柚子の季節湯に加え、散歩中に摘んだよもぎや庭先の花など、異食にも注意しながら変り湯の支援も喜ばれるのではと考える。取り組みに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ日中の午睡を取り入れながら、昼夜逆転につながらないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。処方の変更があった場合には、連絡ノートを利用し伝えている。変更後の状態観察も行っており、次回受診時、報告が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技を活かし、潜在的、残存的能力を引き出し、楽しみや生きがいを持つよう支援している。菜園での作業や同法人の「養護老人ホーム」との交流、外出等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を考慮し、散歩への支援を行っている。地域の方の協力も得られている。個別的に出掛ける支援にも努めている。	本年度は個別支援に力を入れ、日曜日にも実施していた入浴を取りやめ、外出の機会を新たに設定している。地域行事への参加継続や近場で楽しめることをコンセプトに外出先で人々と会話したり、近隣を歩きながら季節の移り変わりを感じるなど、小人数や1対1での関りを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様所持とホーム管理がある。利用者様は買い物同行時に、支払いが出来るように支援している。ホーム管理は、収支状況を記録し家族様へ定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム側から現状報告を行う時に、利用者様にも代わりお話し頂くことで、家族様にも安心して頂いている。各自家族様宛へのはがきのやり取りが出来よう取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の方より季節を感じる花を頂き、各場所に飾ることで落ち着いた空間作りに努めている。また、利用者様と手づくりの貼り絵を作成し、ホーム内に掲示することで、季節感を取り入れている。	玄関先をはじめ住空間の至る所に季節の草花を飾り、可憐な山野草が入居者や職員の心を癒している。リビングに貼られた『ふるさと』の手書きの歌詞は、両ユニットに掲示され日々入居者が口ずさまれホールのシンボルとなっている。オープンな台所からは調理の音と匂いが流れ、その日の料理を心待ちにしながら会話の絶えない場所となっている。	ホーム内の環境は家族や来訪者も楽しみとなっており、今後も季節の草花や直近の写真の掲示などに努めていられることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のその日、その時の心身の状態を把握し、一人ひとりの思い思いの空間で過ごしていただくよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのものを活かすことにより、その人らしく暮らせる部屋となっている。家族写真や利用者様と一緒に作成した、手作りカレンダーを置くなど、暖かい雰囲気を作っている。	入居者の使い慣れた家具が持ち込まれ、手作りカレンダーや家族との思い出の品が飾られている。晴れた日の布団干しや定期的なシーツ交換、日々の掃除により衛生的な住環境を作っている。陽当たりの良い部屋ではひなたぼっこを楽しんだり、植物を眺めたりとおもいおもいに過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を見極め、トイレや居室に名札を掲げたり、身近な所に生活用品を置き、整理整頓が出来るよう、その方の能力が活かせるように支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4393000023		
法人名	社会福祉法人 慈友会		
事業所名	グループホーム慈愛 II		
所在地	熊本県葦北郡芦北町大字天月1345番地		
自己評価作成日	平成28年10月11日	評価結果市町村受理日	平成28年12月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205		
訪問調査日	平成28年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が地域の一員として、家庭的な雰囲気の中で自分らしく生活が出来るよう力を入れてきました。地域交流の一貫として、地域の方が主催する毎月の「読経会」、公民館で開催される地域福祉活動「たっしゃか会」への参加を行い交流を図っています。地域の方から、季節の野菜やお花などが届けられ、「心のよりどころです」との嬉しい言葉をいただいています。利用者様と散歩へ出掛け、四季の花や外の雰囲気を楽しみ、近隣の方との触れ合いを大切にしています。また、菜園では野菜を育て季節の移り変わりを感じ一日一日を大切に過ごしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務室内、ホール内に掲示し、理念に即した行事計画を立て、利用者の日常生活の活性化に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域福祉活動やホーム行事を通して、地域との相互交流を深めている。更に、近隣住民からホームの為に交流を行い、地域との関係が構築されている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム行事の中で、認知症予防体操やレクレーション活動などを、地域の方が利用者様と共に、楽しく行う機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの提供報告やホームの運営に関する相談等を行い、意見が運営に活かされている。ホーム行事(敬老会や茶話会等)や防災協力体制、地域行事の協力が得られている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、またはグループホームからの相談事や地域福祉に関しての情報交換等を行うなど、連携を取っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は鍵を開放している。全職員が身体拘束について理解が浸透し、拘束をしないケアを徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について理解し、虐待をしないケアを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、権利擁護事業の利用者様は入居されていない。知識を深めることに努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、利用料金、入退居の条件等十分な説明を行い、ご家族の相談を聴き、契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様は、日常のコミュニケーションの中から、家族様は、面会時や家族会(年2回)の時に、意見や要望を出してもらい、それらを運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や日々のコミュニケーションにより、随時、職員の意見や要望を聞き、日常業務の流れを見直すなど職員の提案を反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の意見を聞く機会を設けたり、業務改善箱を設置するなど、向上心を持って働ける環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内への研修は月1回実施されている。法人外への研修は、積極的に受けられる体制を取り、質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の同業者とは、研修の中で交流や相互訪問を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、外部への施設研修も行い意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、本人様の要望をうかがい、納得の上で、入居して頂いている。良い関係作りをする為に、家族様へ生活歴、趣味等の記入をお願いしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に在宅訪問、施設見学の受け入れを行い、家族様の要望をうかがっている。担当ケアマネジャーからの情報も聴き、ホームに対する不安が排除出来るような関係作りから始めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームの機能を説明し、家族様、本人様の希望をうかがったり、担当ケアマネジャー等の助言をいただいたりして、サービスの対応策を考慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意思を尊重し、やりたい事、出来る事を見守り、出来ない事が出来るようになる為に一緒に行っている。一人一人との会話の機会を設け、共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との連絡を密に取り、生活状況、心身の様子等を家族様に伝えている。家族様の意向を聞きながら、共に本人様を支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出の際に、馴染みの人や場所を訪れるなど個別ケアを行い、関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、職員が仲介役になり、共同生活が楽しくなるように支援している。また、利用者様が孤立しないよう、共に暮らしを楽しめるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も状態把握に努め、必要に応じて相談を受ける体制を取っており、これまでの関係性を断ち切らないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での会話やコミュニケーションから、本人様の希望や思いを把握し実践へと繋げている。困難な場合は全職員で検討したり、家族へ相談し、その都度対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や家族様、外部から面会に来られた時等、会話の中での情報を収集し、日頃のサービスに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、夕の申し送り時、個々の現状、心身の様子等話し合い、連絡ノートも活用し、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様や家族様の意見や要望などを取り入れながら、チームで話し合い介護計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入している。また、日々の状態を申し送ることで情報を共有し、実践や見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者様や家族様のニーズに応じ柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、地域の消防団、駐在所との情報交換が出来、支援体制の構築が来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診療がなされ、より適切な医療が受けられている。また、専門医へは家族様の希望を大切に、医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に看護師へ、状態や気づきなどを伝え相談することで、適切な診療や看護を受けることが来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院に足を運び、病院や家族様に、回復状況の確認や情報をいただいている。また、主治医とは週1回の定例会議の中で、情報交換や相談が来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要になってくると、ホームでは対応できないことを入居前に説明を行っている。重度化しつつある場合は早い段階で家族様に状態、状況を説明し、方針を理解していただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急処置のマニュアルは作成している。重度化に伴い対応が難しくなっており、実践力を身につけるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年3回は防災訓練を行っている。地域との協力体制も築けている。地震に関しては、消防署から知識や避難方法などを学び身につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を念頭に置き、人格を把握、尊重し、言葉かけやプライバシー保護には、十分に気をつけ個別ケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の職員とのコミュニケーションにより、本人の思いや希望を感じ取れるように、また、本人様が意思表示し易い様な雰囲気作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の個々の利用者様の状態に応じて支援しているが、行事の日は時間に合わせ経過していただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが出来るよう、支援している。好みの衣装を把握し、一緒に準備したりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	地産地消の野菜や菜園で収穫した野菜などを使い、時に好みを聞きながら、楽しみのあるメニューを心掛けている。利用者様と一緒に準備、片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量のチェック表を作成、記入し、把握している。状態に応じて食事量や食事形態を工夫し、提供している。水分量が少ない方には、お茶ゼリーを作る等して水分確保を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを、毎食後行ない、毎日夕食後に義歯の消毒を行っている。必要に応じ、歯科受診を受けられるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。紙パンツ使用の利用者様でも、表情や仕草を見逃さず、必ずトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で状況を把握し、飲食物の工夫を行い、個々に応じた対応を行っている。困難な利用者様は、主治医に報告をし服薬の併用を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間の設定はあるが、状況に応じ入浴していただいている。年に1回、近くの温泉を利用した入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、夜間の睡眠状況に応じ日中の午睡を取り入れながら、昼夜逆転につながらないように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、内容を確認している。処方の変更があった場合には、連絡ノートを利用し伝えている。変更後の状態観察も行っており、次回受診時、報告が出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や特技を活かし、潜在的、残存的能力を引き出し、楽しみや生きがいを持つよう支援している。菜園での作業や同法人の「養護老人ホーム」との交流、外出等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や天候を考慮し、散歩への支援を行っている。地域の方の協力も得られている。個別に出掛ける支援にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様所持とホーム管理がある。利用者様は買い物同行時に、支払いが出来るように支援している。ホーム管理は、収支状況を記録し家族様へ定期的に報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム側から現状報告を行う時に、利用者様にも代わりお話し頂くことで、家族様にも安心して頂いている。各自家族様宛へのはがきのやり取りが出来よう取り組んでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	地域の方より季節を感じる花を頂き、各場所に飾ることで落ち着いた空間作りに努めている。また、利用者様と手づくりの貼り絵を作成し、ホーム内に掲示することで、季節感を取り入れている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様のその日、その時の心身の状態を把握し、一人ひとりの思い思いの空間で過ごしていただくよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や馴染みのものを活かすことにより、その人らしく暮らせる部屋となっている。家族写真や利用者様と一緒に作成した、手作りカレンダーを置くなど、暖かい雰囲気を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、分かる事を見極め、トイレや居室に名札を掲げたり、身近な所に生活用品を置き、整理整頓が出来るよう、その方の能力が活かせるように支援している。		